

広報

# なんせい

## 第20号

発行 南西糖業株式会社 編集 総務部

〒891-7621

鹿児島県大島郡天城町兼久高約2337

Tel 0997(85)3125 Fax 0997(85)3129

単収向上へ

取り組み



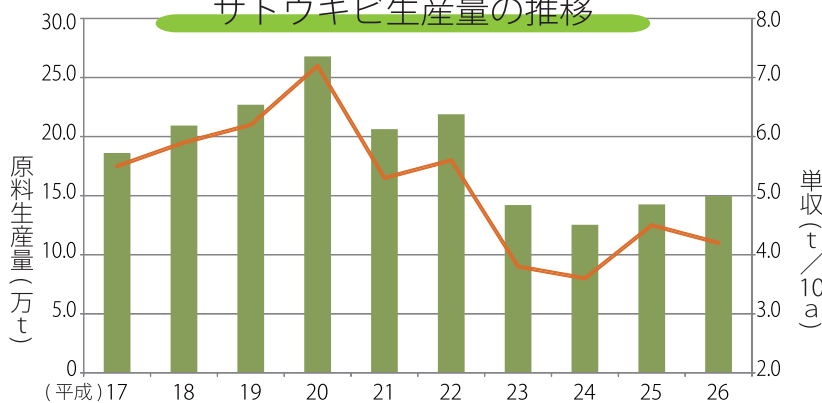
徳之島さとうきび生産対策本部 本部長 高岡 秀規

この度、徳之島さとうきび生産対策本部(以下「対策本部」)では、徳之島さとうきび産業の活性化の為に対策本部の事務局を設置することになりました。

徳之島のさとうきびの生産現場は不作の連続で危機的な状況となっています。特にこの4年間は3・6t(4・8t/10a程度と著しい低単収が恒常化している実態です。

このような状況が今後も続くようなことであれば工場を維持していくことができず、更に減産が加速することになり兼ねないと各関係機関が危機感を募らせ、7月2日の対策本部の総会に合わせ事務局事務所の新設を承認致しました。

サトウキビ生産量の推移



事務所の名称は「単収向上推進室」とし、場所を南西糖業(株)徳之島事業本部内に設置致します。

構成員は関係機関担当者を各2名計12名としますが、必要に応じて陣容はフレキシブルに対応したいと思えます。

喫緊の対処すべき課題として国の新しい助成事業である「セーフティネット基金」に対する対策、来年更新される「さとうきび振興計画」策定

の支援、今期の夏植推進に向けた取り組みなどを予定しており、今後の徳之島のさとうきびに関する、島を横断した取組の最前線として活用していきたいと思っております。

特に農家の皆様の声や国や研究機関などからの新しい情報などを直接集めすぐに対応できるフットワークの良さを前面に出した組織を目指しています。

この組織をさとうきび農家支援対策の最前線基地とすることで、低迷するさとうきび生産のV字回復への足掛かりとしたいとの意気込みで関係者一体となって取り組む所存です。

サトウキビと  
共に生きる



代表取締役社長 村 順一

昨年は皆様のご尽力により、収穫面積は3600ha弱まで回復しましたが、その後の台風やメイチュウ被害等により、残念ながら4期連続の不作

となりました。その結果、弊社も4期連続赤字が確定し、此の度、50年の歴史で二度目の経営の岐路に立ちました。一度目は平成9年で、やはり4期連続の赤字を計上し、工場閉鎖を余儀なくされました。此の度も工場縮小は選択肢にありましたが、私共は徳之島のキビ産業再構築の鍵は二工場体制にあると考え、これを死守するつもりです。そのため先ずは赤字の連鎖を断つべく、私共は二工場体制のもとで16万トンの生産量でも赤字が出ないよう更なるコスト削減を断行致します。そして皆様にお願ひしたいことは収穫面積回復と単収の向上です。

私共が考える徳之島のキビ産業再構築の三要素は、①収穫面積4000ha、②単収6トン、③気象災害を受けても生産量は20万t以上の三つですが、これは徳之島ダムを考慮すれば十分可能です。喜界島ではダム完成後、着実に収穫面積が拡大しており、同じことが徳之島でも期待できます。私共は収穫面積拡大、単収向上に向け、引き続き役割貢献し、キビ産業が再構築される日を皆様と共に迎えたいと思えます。

## 栽培面積は回復傾向

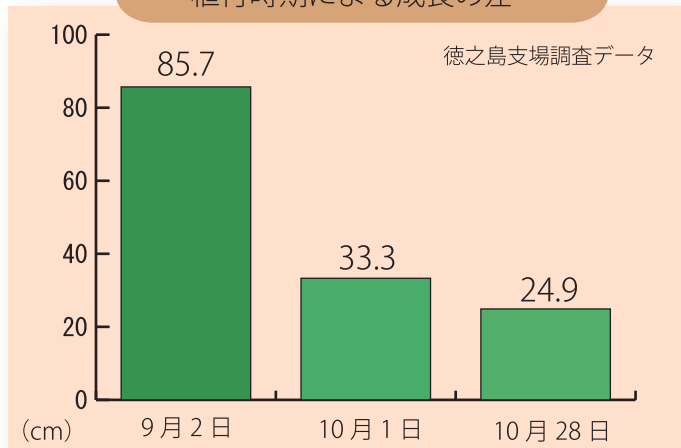
平成27/28年期の栽培面積は、前期を111ha上回る3875haでした。内訳は夏植面積と春植面積は前期を下回りましたが、株出面積は前期を499ha上回る2564haを確保し、全作型合計では前期を超える面積を確保できました。

栽培面積から150ha程の種苗面積を差し引くと、目標

平成27/28年期の栽培面積(単位:ha)

区分	夏植	春植	株出	合計
今期見込	374	937	2,564	3,875
昨年実績	647	1,052	2,065	3,764
増減	△273	△115	499	111

植付時期による成長の差



(植付時期が違う夏植を4月下旬時点で長さを比べたグラフ)

- 適期植付で期待される効果
  - ① 増収効果(単収アップ)
  - ② 年内で概ねの管理を完了(作業分散)
  - ③ 早期収穫による次年度株出の増収効果
- ※早期収穫の場合は早期登熟型の品種(8号、30号など)をお勧めします。

面積であった収穫面積の3700haを達成したことになります。

厳しい環境下ではありませんが、農家の皆様のご努力によりまして、来期以降のさとうきびの回復に向けて好発進ができました。

今年は適度な慈雨により、豊作を期待しております。

## 夏植で単収アップ

ここ数年は台風やメイチュウなどで低い単収が続いています。

そこで収量が安定している夏植のポイントを今一度確認し、収量アップを図りましょう。



夏植えの植付適期は8月から9月です!

気温の高い時期に植付けると年内中に多くの分けつ数と確保できます。

また、さとうきびが伸び始める4月~5月までに1m以上まで育っている場合と伸長が遅れている場合では、6月~9月の生育旺盛期の伸び方に大きな差がつかます。

夏植の植付けは適期から30日遅れるだけで、4月末時点での茎長は半分以下の伸び(39%)しかありません。

## 安定多収に向けて!

基本技術をしっかり守る事が最も大切です。

安定多収を目指すには自分の持っている農機や畑に行ける回数などを考え、さとうきびの育ち方に合わせた適期管理を行う事が大切です。

不安定で低い単収となる理由は、手抜き作業、作業遅れ、悪さがあります。

安定多収に向けて「早め・ていねい・基本作業を確実に」をしつかりと行いましょう。



## 植付のポイント

- ① 堆肥、緑肥、輪作による土づくり
- ② 堆肥は植付前3~4t/10aを全面散布。植付前に散布できない場合は、発芽揃後最終培土までに株元散布する方法もあります。
- ③ 土壌分析による土壌改良
- ④ さとうきびの適正pHは6~7。酸性が強い場合は苦土石灰などを散布します。
- ⑤ 植付後は、すぐにかん水するなど、生育初期の積極的なかん水を実施してください。

④ 茎数確保  
近年は茎数の不足も低単収の原因の一つになっています。十分な量の健全苗植付が必要です。

植付本数の目安は二芽苗で3300~3500本/10a。10mあたり80本以上の発芽となる様に補植を徹底してください。

⑤ 追肥・害虫防除  
近年はメイチュウなどの病害虫被害が深刻です。

植付時にはプリンスベイト、ダントツ粒剤などの薬剤を併用してください。効き目は1ヶ月くらいと考え、害虫被害の発生状況に注視し、被害が発生した時は「サムコルフロアブル」(500リットルタンクに200ml瓶の半分を溶かして50a程度まで散布できます)が効果的です。

除草の徹底も重要でメイチュウ被害は大幅に減らせます。以上の基本技術をしつかりと行い、安定多収を目指しましょう。





# 優良農家に聞いた夏植Q&A



禎村 良信さん  
(70歳：天城町兼久)

安定的な収量を確保されている禎村良信さんに夏植栽培について伺いました。貞村さんの今年の収穫予定は約14haで、夏植は1haを予定しています。

Q：単収回復の為、地力増強が言われていますが、土づくりで励行されていることは？

A：土壌分析を行い、それに従って苦土石灰などの土壌改良剤を散布し、堆肥を投入しています。

Q：ほ場準備はどのようにしていますか？

A：まず、植付前までに最低でも2回はロータリー耕を行い、その後、トラクターによる踏圧を解消するためプラソ

ンイラーで心土破壊を行い、さらに2回のロータリー耕と石灰散布を行っています。

Q：採苗、植付ではどのような準備やこだわりなどがありますか？

A：種苗は自家ほ場で優良な苗を作り、それを家族で採苗しています。9月初旬までに植付を済ませる様にしています。畝立では深溝を作り、覆土は浅くし、植え付け後に根がしっかりと付くように転圧をしています。

Q：除草対策・肥培管理で心がけていることは？

A：植付後すぐに土壌処理を行っています。使用剤はカーメックスです。

Q：中耕・培土の時期と使用機械などで心がけていることは？

A：早め早めの管理を心掛け

ています。中耕、培土では2連ロータリーを使用しています。

Q：病害虫対策のタイミング、使用機械とその方法は？

A：中耕時にオンコル粒剤を散布し、土壌混和しています。生育期後半ではスミチオン乳剤を動力噴霧機で散布しています。

Q：補植はどの様にしていますか？

A：株割り機は保有していますが、なかなか手が回らないのが悩みです。



田中秀樹さん  
(37歳：伊仙町西伊仙)

若手のサトウキビ農家として規模拡大を目指す田中秀樹さんの夏植栽培を伺いました。田中さんは収穫面積約2・7haで夏植予定は1haです。

Q：土づくりはどのようにしていますか？

A：植付後に堆肥の筋時きを行っています。

Q：種苗の調達方法や植付で心がけていることは？

A：原苗を調達し、それを種苗用として自家管理して優良な種苗を確保し、植付では欠株が出ないように密植しています。欠株があると雑草が発生するので、欠株を無くす様に心がけています。

植付時期も9月中旬までに済むようにしており、30aほどは8月中の植付に向け準備しています。ちなみに春植えは3月中旬に植付が済むようにしています。

植付後は苗の活着が良くなくなる様に転圧を実施しています。

Q：除草対策、肥培管理で心がけていることは？

A：植付後10日以内に土壌処理をしています。ちなみに、株出では株揃え実施後に施肥し、すぐに土壌処理を実施しています。

中耕は2回以上行うように

して、培土は耕耘機に培土板を取り付けて6月中をめどに行っています。

害虫対策は3月と6月に散布機を使用して防除しています。

補植は2芽苗を使って3月、4月の雨天時の作業としています。

Q：今後のサトウキビ栽培について一言どうぞ

A：昨年に50馬力の大型トラクターを導入し、作業効率向上による適期管理の励行で面積拡大を目指しながら、地域に貢献し、サトウキビ栽培の低コスト化、省力化で「もうかるキビ作り」を追求していきたいと思っています。



## 夏植え準備トラクター作業 受付け中

(有)南西サービスでは、「平成27/28年夏植え準備トラクター受託作業(プラウ・プラソイラー・ロータリー等)やプランター植付け受託作業を受付けております。従業員一同、「委託農家の皆様から信頼を得られるように」と常日頃から丁寧な作業を心掛けて受託作業に励んでおりますので、皆様方のご愛顧よろしくお願ひ申し上げます。



### トラクター作業料金

作業名	金額(税込)
プラウ・プラソイラー	7,560円/時間
ロータリー・2連ローター	7,560円/時間
株揃え(ハーベスタ受託圃場)	1,500円/10a

### プランター作業料金

プランター型式	金額(税込)	1時間当りの植付面積	採苗・運搬代(苗代別)(税込)	備考
長茎式	11,880円/時間	5~10畝	10,500円/反	3名(2名は助手)
ハーベスタ採苗	11,880円/時間	10~15畝	8,640円/反	2名(1名は助手)

#### ★さとうきび関連サイト★

「alic | 独立行政法人 農畜産業振興機構」  
www.alic.go.jp

「沖永良部 高単収さとうきび栽培の手引き」  
(知名町ホームページより)  
www.town.china.lg.jp/



本ブログは、所属や職責に関係なく、さとうきびに関する各自の自由な情報を気兼ねなく書き込める場としたいと思っておりますので、面白そうなお知らせをどんどん投稿してください。

新ジャンプ会  
ブログ始めました

「徳之島さとうきび新ジャンプ会」

[http://blog.livedoor.jp/new\\_jump\\_group/](http://blog.livedoor.jp/new_jump_group/)

#### 氏名(年齢)

松山 卓矢(29歳)

#### 出身地

徳之島町井之川

#### 抱負

今まで社会で学んできたことを活かして一生懸命頑張りますので、よろしくお願い致します。



#### 氏名(年齢)

富 祐司(32歳)

#### 出身地

伊仙町小島

#### 抱負

会社の一員として仕事を早く覚え、キビ作りも頑張り会社と徳之島の発展に貢献したいです。



#### 氏名(年齢)

義山 哲平(22歳)

#### 出身地

伊仙町伊仙

#### 抱負

徳之島のサトウキビ振興に会社の一員として寄与していきたいと思ひます。若輩者ですがよろしくお願い致します。



#### 氏名(年齢)

前田 隆博(22歳)

#### 出身地

徳之島町井之川

#### 抱負

先輩方の親身な指導のもと、やる気を持って一社員、一農家として島と会社を盛り上げていきたいです。



## 新入社員紹介

4月1日付で新しく仲間入りした4名の新入社員を紹介致します。今後ともよろしくお願い致します。